

簡易被覆による一番茶の生育促進効果

農業研究センター 球磨農業研究所

研究のねらい

大型機械化茶園に適應する摘採適期幅の拡大と、高品質茶の安定生産のための簡易被覆技術を確立する。

研究の成果

- (1) 萌芽期は、直掛け被覆が露地に比べ1～6日早く、適採期も4～5日早かった。
- (2) 収量は、生育促進資材ではサンリッチ、タフベル、シモレスは露地より増収したが、白カンレイシャは減収傾向にあった。また、ギョクロンネット及びバロンスクリーン被覆の収量は、平成5年においては露地と同程度かそれ以上であったが、平成6、7年は露地の収量より下回った。
- (3) 直掛け被覆による葉焼け症状は、生育促進資材では発生はなく、ギョクロンネット及びバロンスクリーン被覆ではわずかに見られたが、製茶品質に影響のある程ではなかった。
- (4) 品質では外観は、資材による差がなく、内質は、シモレスが香気、水色に優れ、サンリッチが滋味に旨味を呈し優れた。また、ギョクロンネット、バロンスクリーンは露地に比べ外観が鮮緑で内質は旨味があり優れた。
- (5) 直掛け被覆作業はトンネル被覆に比べおおよそ1/3の時間で済み、大幅な時間短縮ができた。

以上のことから、直掛け被覆して一番茶の適採期を露地より早めるためには、供試したいずれの資材も適應できるが、サンリッチ、タフベル、シモレスの効果が高いと思われた。

特に収益の点からみれば、サンリッチが最も高かった。また直掛け被覆は、被覆作業及び被覆撤去時間がトンネル被覆の場合より大幅に短縮できるため、大型機械化茶園にも対応できると考えられる。

品質向上にはギョクロンネット及びバロンスクリーンともに被覆効果が大きいですが、収量の低下が見られた。

普及上の留意点

直掛け被覆は、防霜ファン設置園で行うこと。

表1 生育促進資材（試験年次平均、但し収量、市場評価、収益性はH6・7年平均）

	サンリッチ	タフベル	シモレス	カンレイシャ	露地
萌芽期(月日)	4/7~8	4/7~8	4/8~9	4/8~10	4/10~13
摘採期(月日)	4/28~5/8	4/28~5/8	4/29~5/10	4/2~5/9	5/3~13
芽長(cm)	4.9	4.5	4.8	4.7	5.2
葉数(枚)	3.0	2.7	3.0	3.0	3.2
百芽重(g)	37.7	31.0	41.2	32.8	37.7
出開度(%)	50.7	47.3	50.5	43.1	53.1
収量(kg/10a)	249.0(131)	220.0(116)	205.5(108)	170.0(90)	189.5(100)
品質評価(点)	93	88	88	87	87
市場評価(円)	3,697	3,449	4,004	3,659	2,912
収益性(千円/10a)	184.1(127)	151.8(104)	164.6(113)	124.4(85)	145.6(100)

()は露地に対する比率、被覆期間は約40~50日間

表2 品質向上資材（試験年次平均）

項目	ギョクロンネット	パロンスクリーン	露地
芽長(cm)	5.4	5.2	5.2
葉数(枚)	3.3	3.3	3.2
百芽重(g)	49.5	49.1	47.6
出開度(%)	79.1	79.3	69.1
収量(kg/10a)	335.3(96)	335.6(96)	348.6(100)
品質評価(点)	87.2	91.0	81.0
市場評価(円)	3,433	3,433	3,082
収益性(千円/10a)	230.2(107)	230.4(107)	214.9(100)

()は露地に対する比率

表3 被覆作業時間（生育促進の4資材平均、10a当たり）

作業項目	支柱立て	ピンチ取付	被覆+ピンチ止	合計
直掛け被覆	-	-	2時間2分	2時間2分
トンネル被覆	2時間43分	1時間34分	1時間39分	5時間56分

表4 被覆資材・支柱撤去時間（品質向上の2資材平均、10a当たり）

直掛け被覆	43分（ピンチは残す）
トンネル被覆	1時間48分（ " ）